

第4部

《《《 連携に向けたアイデア 》》》



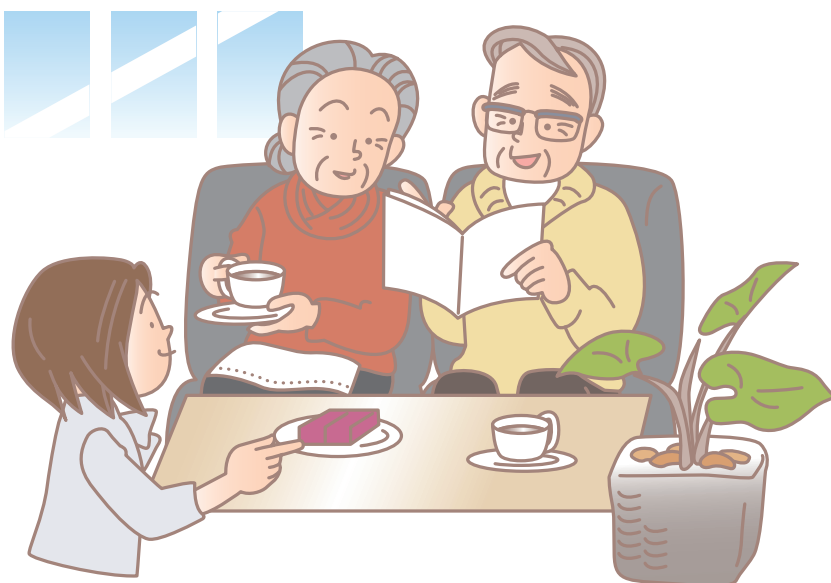
■ 連携に向けたアイデア

地域にはさまざまな団体があり、これらの団体が互いに連携しながら「まちづくり」を進めていくことは地域にとって大変貴重な財産です。

団体間の連携がより活発になり、地域の大切な“財産”がより多くのまちづくり活動に生かされればとの思いから、きよたまちづくり区民会議の委員から挙げられたアイデアを紹介します。

● 団体同士の交流の促進を

- ▶ 地域のさまざまな団体が交流し、情報交換できる機会を創出することが、団体同士の連携につながっていくのではないのでしょうか。
- ▶ 例えば、さまざまな活動をしている団体・個人の方々が誘い合い、地域のまちづくりセンターに気軽に集まって話し合うサロンやカフェを開催して、日ごろの活動の中での困りごとや各種相談など、情報交換できる機会が創出できれば、団体同士の交流や連携した取り組みが生まれるきっかけとなる可能性があると思います。



● 同じ分野の団体の交流促進を

- ▶ 同じ分野の活動をしている団体同士でも、意外とお互いを知らないでいることもあると聞きます。例えば、「子ども」に関する団体としては、子ども会や青少年育成委員会、PTAなどがあります。「更生保護」では、保護司会、更生保護女性会、協力雇用主会などもあります。それぞれ交流があり必要な情報交換を行っていると思いますが、こうした団体が、普段から交流して情報交換を行うのは非常に大切なことですね。
- ▶ 各団体でいろいろなイベントをしていますよね。単独の開催もいいけど、どうせやるなら、同じ分野の団体がもっと連携して共同で実施した方が、規模も大きくなるし、団体同士のつながりもできていいんじゃないかな。

● 団体の情報の積極的な発信を

- ▶ 団体同士の連携を図るためには、まず、地域で活動している団体の活動内容を知ることが必要だと思います。でも、いざ知ろうと思っても、何を見たらいいか、情報がどこにあるか分からないことが多くあります。裏を返すと、各団体が自分たちの団体の概要や活動を多くの人に知ってもらえるように、ホームページや広報紙などで、積極的に情報を発信することが大切なのではないかと思います。



■ 連携に向けたアイデア

● それぞれの得意分野を生かした活動を

▶ 団体にはそれぞれ強みがあると思います。健康に関することを得意としている団体や、高齢者・子どもの対応に優れた団体、歴史に関することに強い団体…。例えばそれぞれの活動分野に豊富な知識を持つ大学の教授陣に、団体のよき理解者（サポーター）になってもらうといいですよ。地域と連携して、大学教授が専門の分野に関する講演などを行い、多くの団体が一緒に学んだりすると、団体の資質向上はもちろん、団体同士の交流のきっかけにもなるのではないかと思います。

● 小中学生の参画による連携促進を

▶ 清田中央地区の交通少年団や北野地区の福祉除雪など、小中学生が地域のまちづくり活動に参加している事例は多くあります。将来を担う子どもたちが地域のさまざまな活動に参加していくことは、子どもの成長のうえでも貴重な体験となりますし、その後のまちづくり活動への参加促進につながることを期待されます。

▶ 例えば、小中学生に各種団体の活動を取材または体験学習してもらい、その経験を区民フォーラムのような場で発表することができれば、子どものみならず保護者の方々にも団体の活動を知っていただくことができ、団体の活動PR、連携につながっていくのではないのでしょうか。



●一つの取り組みをみんなで協力して行おう

- ▶地域のさまざまな団体が一緒になって環境美化活動やボランティア活動を行ったりすると、それをきっかけに団体同士のつながりが強化されるのではないのでしょうか。
- ▶清田区民センターの前の歩道の街路樹柵で、きれいな花と花植えを行った団体名が書いてあるプレートを目にしました。地区内のさまざまな団体が一緒になって植花を行っているのですね。このような活動は、地域の団体同士のふれあいの場となり、連携につながっていくと思います。
- ▶アイスクャンدلやスノーキャンدلをたくさん並べ、冬の夜を鮮やかに彩るイベントが区内の数カ所で行われているのを見て、とてもきれいだと思いました。できれば、学校や町内会などより多くの団体、さらには地域住民も協力して、日にちを合わせて区全体で開催できると素晴らしいですね。地域の一体感も生まれるのではないのでしょうか。



